

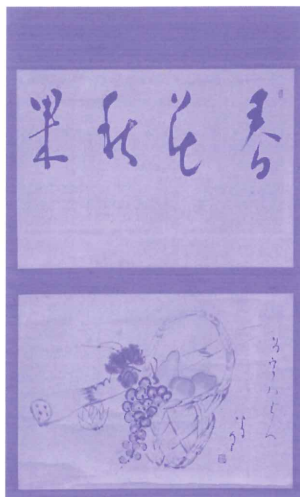
「七夕図屏風」 「ほたる」の時代

— 1922年(大正11)前後の夢二とお葉 —

竹久夢二(1884-1934)は、明治末期から大正期、昭和初期に活躍した詩人画家です。本展覧会では、大正11年(1922)、数え年39歳の夢二が山形県酒田で描いたとされる名作「七夕図屏風」や「ほたる」などの収蔵品を展示します。

この時期は、大正9年に最愛の恋人・笠井彦乃を失ってから関東大震災で「どんたく図案社」設立の夢がついえるまでの期間と重なります。港町や山間の温泉地への旅を好んだ夢二は、渋谷町(現渋谷区)宇田川でともに暮らした秋田県出身のモデル・お葉(佐々木カ子ヨ)の影響もあってか、頻りに東北地方へと足を向けるようになります。また、「夢二抒情小品展覧会」(大正6年・金沢)に尽力した口語短歌の歌人・西出朝風の隣に住い、家族ぐるみの交流を深めながら作品を生み出しました。一方で、夢二は本の装幀や楽譜表紙絵など出版界での活動も継続し、大正11年には京都の印刷所「清文堂」の主人・大槻笹舟を悼む『すりもの 笹舟追悼号』に表紙絵と追悼文を寄せています。

このような仕事を中心に、今から約100年前の夢二の制作と活動を紹介します。なお、本展覧会では、「竹久家コレクション」より当館初公開となるお葉の日記と書簡も展示します。



1.「春花秋果」(「為宇八主人」)、大正14年頃(1925)、当館蔵 / 2.スケッチブック『EAGLE』SKETCH-BOOK』31/32、大正11年(1922)、当館蔵 / 3.懸紙「誕生の為に」、木版/紙、大正11年(1922)、当館蔵 4.竹久夢二表紙絵、「すりもの 笹舟追悼号」、大正11年(1922)、当館蔵 / 5.「京都下河原松の家にて」(「すりもの 笹舟追悼号」掲載)、左よりお葉、夢二、大槻笹舟、大正9年(1920)撮映、当館蔵 / 6.上)佐々木カ子ヨ、「お葉日記」、大正9年(1920)~10年、当館蔵 下)佐々木カ子ヨ、竹久不二彦宛書簡「お手紙」、大正14年(1925)、当館蔵



イベントのご案内

展覧会関連イベント

展示解説

当館の館長もしくは学芸員が展示の見どころを解説します。

日時 4月3日(日)、5月1日(日)、
6月5日(日)、7月3日(日)
14時00分~14時20分

申し込み 事前申し込み 参加費 当日の
不要 観覧料金のみ

※人数制限など最新の状況については当館HPにてお知らせいたします。

イベント

「湯涌(ゆ8・9)でわくわくしよう」オリジナルグッズプレゼント

日時 4月8日(金)9日(土)、5月8日(日)9日(月)、6月8日(水)9日(木)、
7月8日(金)9日(土)

「夢二誕生日キャンペーン」オリジナルグッズプレゼント

夢二とそのゆかりの女性たちの誕生日を祝って、
各日先着50名様に当館オリジナルグッズをプレゼントします。

日にち 3月28日(月)笠井彦乃誕生日、7月24日(日)たまき誕生日

※誕生日当日(3月29日、7月28日)は両日とも休館のため、日程を繰り上げて実施します。

金沢湯涌夢二館
Kanazawa Yuwaku Yumeji-kan Museum

〒920-1123 石川県金沢市湯涌町イ144-1
TEL (076) 235-1112 FAX (076) 235-1115
https://www.kanazawa-museum.jp/yumeji/
e-mail yumeji@kanazawa-museum.jp

休館日: 毎週火曜日
開館時間: 9時~17時30分(入館受付は17時まで)
観覧料金: 一般・大学生310円、団体(20名様以上)260円
65歳以上210円(祝日無料)、高校生以下無料
交通案内 ●金沢駅よりタクシー約30分
●金沢駅兼六園口より北鉄バス「湯涌温泉」行き約45分、
終点湯涌温泉バス下車徒歩4分
●北陸自動車道金沢東インターより約45分、
金沢西インターより約50分、金沢森本インターより約30分
●兼六園(金沢市中心部)から車で約20分

